

『半七半八（はんしちきどり）』

作…中野 成樹

■登場人物

半八（八島半次郎）  
元警官  
その恋人、半七の妹  
絹（七瀬絹）

洪  
千葉県警の刑事  
牛飼  
その部下  
棟子  
その部下、新人  
西内  
松戸署交通課

みっちゃん  
松戸の若者  
みなみ  
松戸の若者  
オリヴィエ  
ディスコのオーナー

淳子  
半八の叔母

上野  
制服マニア、パブ・デートクラブ経営

小口  
松戸四中の中学生

半七（七瀬半）  
警視庁の刑事、絹の兄

■舞台

千葉県松戸市、JR常磐線「松戸駅」西口周辺

■ 場面と時間

一幕（ディスコの景）

|      |       |    |
|------|-------|----|
| ・ 一場 | 一九九九年 | 金曜 |
| ・ 二場 | 〃     | 木曜 |
| ・ 三場 | 〃     | 水曜 |
| ・ 四場 | 〃     | 火曜 |
| ・ 五場 | 〃     | 月曜 |

二幕（ホテルの景）

|      |       |    |
|------|-------|----|
| ・ 一場 | 一九九七年 | 九月 |
| ・ 二場 | 〃     | 七月 |

三幕（マンションの景）

|      |       |   |
|------|-------|---|
| ・ 一場 | 一九九五年 | 秋 |
|------|-------|---|

四幕（和室の景）

|      |       |     |
|------|-------|-----|
| ・ 一場 | 一九九三年 | お昼時 |
| ・ 二場 | 〃     | 午前中 |

五幕（裏庭の景）

|      |       |        |
|------|-------|--------|
| ・ 一場 | 一九九二年 | 強い西日の頃 |
| ・ 二場 | 〃     | 二時間前   |

六幕（河川敷の景）

|               |       |           |
|---------------|-------|-----------|
| ・ 一場（回想の場を含む） | 一九九〇年 | 陽が沈み終幕となる |
|---------------|-------|-----------|

■ はじまり

目の前が近すぎて、ほんとのところがわからない。

■ 一幕

JR常磐線「松戸駅」西口。

改札より徒歩四分の雑居ビル。一階は個人が経営する町のコンビニ、その最上階にディスコ「ファンクラブ」がある。

左手にエレベーターの扉。開くとすぐ目の前に二〇坪程のダンスフロア。上方に照明・音響用のパイプが敷かれ、ライト、ミラーボール、レーザービームマシン、スモークの吹き出し口、四隅にスピーカーがセットされている。正面の壁には大きな丸い窓が四つ。右側二つからは町の景色が、左側二つからは向いのマンションのベランダが見える。右手奥に一段上がったDJブース。下に大きなウーファーが仕込まれ、本格派をアピールする。ブース横に簡素なドリンクコーナー。中には家庭用の冷蔵庫。その横に外階段へつながる非常口。

フロアの真ん中に、女子高生の首吊り死体。

だが中身はなく、マネキンに制服が着せられ、天井からぶら下げられている。

▼ 一場

一九九九年、金曜日。

誰もいない店内。

エレベータの扉が開き、半八（八島半次郎）が入って来る。上下ともグレーのよれたスウェット姿。手には十手。

半八  
すいません、遅れました……。

と、ふいにカウンターより絹の姿。

半八 絹  
——え？  
うん。

半八 絹  
え、なに？  
見つけちゃった、つてのと、見つかった、つて話をね。  
うん。

絹  
あったよ、本物（吊るされている制服姿のマネキンを指差す）。

半八 絹  
え？  
結局はさ、こっちにあったままだった。  
これ……。  
そう。なんだよ、松戸四中つて。  
それでか、見覚えあると思ってた。  
覚えとけて。  
ああ……。

絹 半八  
（制服を眺め）でも、この人、実際はあちこち旅したのかなあ。

半八 絹  
どうだろう。  
思ったよりもキレイなままだけど。  
うん。……これが本物か。  
ああ、そうか。はじめてか、見るの。  
うん。

半八 絹  
そうか……。 （制服を指差し）これが私、で、（自身を指差し）私が私。これでようやく揃ったよ。

半八

そっか。  
あらためて、七瀬絹です。

半八

ああ、うん……。

絹

はじめまして。

半八

ああ、大丈夫？

絹

うん、よろしく。

半八

うん。

絹

一〇年かかっちゃったね。

半八

そっか。

絹

あと、お兄ちゃん、見つかった。

半八

……うん。

絹

あれ？

半八

うん。

絹

さすがにもう逃げられないと思う。

半八

そう……。

だからさ、みんな来る前に一線超えなつて。本当はこれと言いにきた。

半八、窓の外を眺める。

絹

……もう、来てる？

半八

いや。（一息吐き）終わりかな？

絹

うん。

半八

半端な一生だったなあ。

絹

本当に？

半八

そうでもないか。

絹

うん。

半八

じゃあ、だね。

絹

ようやく割切ったか。

半八

まあさ。

絹

半八親分。

半八

ん？

絹

いいんじゃない？

半八

うん。

絹

半端者と偽物の恋物語、

半八

これで終幕。

絹

来たよ、早く。

と、エレベータが上がり来て、県警の刑事・牛飼が  
やってくる。追って、新人・棟子の姿。

牛飼

（半八を見つけ）ああ、八島さん。

半八

ええ、牛飼さん。

牛飼

はい。

半八

ええ。（絹に）とりあえず、どこいけばいい？

牛飼

え？

絹

三途の川を渡ってさ……東京に紛れるか――。

牛飼

え？

半八

（牛飼に）なに？

牛飼

いや……。

間

牛飼

（あらため）八島半次郎、署まで同行願います。

半八

牛飼さん……カード忘れちゃって、ちよつと取りに……。

牛飼

いえ、今日はもう調べなくて結構です。

棟子

これからは、あなたが調べられる番です。

半八

え、なに？

牛飼

しらばつくないで。

半八

恥ずかしながら、皆目。

棟子

七瀬半、および七瀬絹、殺害容疑で逮捕します。

絹

またね。

半八 うん、地獄で。  
牛飼 なに？

半八、カウンターを乗り越え、非常口の扉を開け外へ飛び出す。

牛飼 あ、馬鹿……！

棟子 下に回ります！（エレベータに駆け寄る）

牛飼 （外に出た半八を追いついて、ここ七階！

棟子 ああ、（エレベーターが）下だ！

棟子、引き返す。

と、非常口の扉が閉まる。

牛飼 （外から声）やめろ！ 八島！ 親分……！ あ——！

間

棟子 （ゆっくり非常口に近寄りながら）……牛飼さん？

おわりー。

## ▼二場

その前日、木曜日。  
ディスコ・ファンクラブ。

牛飼と棟子。電話で上司らしき人物と話をしている。

牛飼 ……はい、死体の入換えです。 ……はい、死体の……はい、入換え。 いや厳密に言えば、出し入れといった方がいいのかな……。 ……はい、すいません、わかりずらくて。 ……はい、代わります。（棟子に）ごめん、どうもうまく伝えられなくて……。

棟子

はい。……かわりました。……はい、棟子です。……ええ、  
ですので、牛飼さんがおつしやったように、死体の入換えと  
いえば入換えです……。……はい。……まず、一人目の死体  
が土中から発見されます。その死体を、穴から取り出します。  
……はい、そうです、我々が。はい、そして、その穴を……  
そのままにしておくことはできませんので、平らに埋め戻し  
ます……。

牛飼

そこで、な。

棟子

はい、そこで、平らに埋め戻す際、先ほどの死体とは別の死  
体をその穴に誰かがそつと埋めてしまいます。……はい、そ  
うです、一人目とは別の死体ですし、別の事件です。……え  
え、こちらの首吊りとは無関係の話を、今、しています。

牛飼

そもそも、な。

棟子

はい。……ええ、こちらの首吊りは、実際はマネキンに服が  
着せられていただけですので……。……はい、誤報です。……はい、  
「間違いなく、異常者による殺人」と言ったのが、通報者な  
のか、私たちの身の者なのかは、まだ……。……はい、え  
え、ですので、こちらの現場としましては……。正直、犯人も  
何もとあったところで……。優先順位は低く……。宙ぶらりん  
です。

牛飼

まさに、な。

棟子

はい……。ええ、穴の話は、河西屋の裏庭の話です。……ええ、  
一度死体を取り出した穴、場所でしたので、我々としても、  
いわばノーマークの場所でした。……はい、そうです、今回  
はお兄さまの方です……。歯形が一致しました。……はい、  
わかります。……。牛飼さん。

牛飼

うん、悪いな。

棟子

いえ。

牛飼

……。もしも、かわりました。……。はい、そういうことです。  
……。ええ、増築工事を、とのタイミングで……。ええ、ええ  
……。そうです、前回も増築工事のタイミングで……。はい、  
ですので、いまだ増築はできていません……。我々としまし  
ても、河西屋の方々に何ができるのか……。できないのか。……  
はい、ですが、これで目鼻はつきました。……。ええ、一人

棟子  
牛飼  
棟子  
牛飼

目の死体が出た際、自ら名乗り出て、その穴の埋め戻しの陣頭指揮をとった者がいます。……いえ、現職ではなく、その時点ですでに引退をしていたOBです。……はい、現場に立ち会っていた刑事が証言しました。……はい、たしかにどのみち問題です。ですので早急に対処を。……いえ、それは大丈夫、明日になれば楽し氣にここをたずねて来ます。

……ええ。

（棟子に）ん？

いえ。

うん……。 （電話に） あ、いえ……。ええ……。はい。

おわりー。

### ▼三場

その前日、水曜日。

ディスコ・ファンクラブ。

制服マニア・上野と、松戸署交通課の西内。例の首吊り死体を眺めている。上野は紫色の薔薇が書かれたシャツに黒のチノパン。長い髪をカチューシャで後へ流している。

はい、これです。

ああ……。

持ち主、特定できないかって。

三葉学園の九十年モデルだね。三葉学園がもつとも三葉学園らしかった時代。

あ……。へえ。

よく手に入ったじゃない。

コレクションじゃないと思いますけど。

前に君に貸したの、コレの次のモデルね。

あ、そうなんですか？

（首吊りに近寄り）状態いいなあ……。これ。

西内  
上野  
西内  
上野  
西内  
上野  
西内  
上野  
西内  
上野

西内　　はあ……。

上野　　九十年頃ってブルセラが社会現象になった時期でしょ。

西内　　ええ。

上野　　当然、三葉も大人気で。でもやっぱりお固い学校だから、めったに出回らなくって。

西内　　はあ。

上野　　市場に出たら即十万オーバーでバンバン取引ですよ。

西内　　あ、そんなに貴重なんだ……。

上野　　これなんて今となっちゃビンテージだよ。なに、これ事件なの？

西内　　わかんないです。

上野　　そう……。

西内　　何か一昨日、店のオーナーから通報があったみたいで。人が殺されてますって。

上野　　へえ。

#### 間

西内　　上野さん、今は何してるんですか？

上野　　パブ？ 地元で、新小岩だけど。

西内　　あれ、もうこっち居ないんですか？

上野　　いや、元々通いだったし。それに、さすがにあそこはもうね……。

西内　　じゃあ、わざわざ呼ばれたんだ。

上野　　何か、新人が最初に呼ぶ人、間違ったって。

西内　　あ、ききました。なんか、結局、単なる遺失物捜査だろうって親分呼んじやったみたいで。

上野　　親分？

西内　　八島さん。

上野　　え……？ だって、彼、けっこう前に辞めたでしょ？

西内　　私が入る前かな？

上野　　なのに、なんで？

西内　　よくわからないですけど、町の生涯学習の一環みたいで。

上野　　生涯学習……？

西内　　半八親分って呼ばれて、あちこち顔出してるみたいで。

上野　へえ……。

西内　まあ、悪い人じゃないですから。

上野　まあ、ねえ。

西内　（制服を眺め）ねえ、こういうのっていくらくらいするんですか？

上野　なに？ 欲しいの？

西内　いえ、そういうわけじゃないですけど。

上野　そうねえ……こいつあたりだと、まあ本物だし。

西内　え、偽物があるんですか？

上野　そりゃ、まあ……あるでしょ。ここだけの話、俺もちよつと？  
あら。

上野　でも、一度それが本人にばれちゃったことがあつてさ。

西内　本人？

上野　それこそ三葉のレプリカでさ、できるだけ本物によせようって個人の学生番号みたいのを適当に入れちゃったのよ。  
ええ。

西内　そうしたら、その番号の生徒が実在しちゃって。

上野　え？

西内　で、どうしてだか学校の先生の耳にそれが届いて、本人、呼ばれて聞いただされちゃった。

上野　うわ。

西内　悲惨だよねえ……本人まったくわけわかんないよね、そんなの。

上野　ええ。

西内　でも結局ダメだったみたいでさ。

上野　ダメ……？

西内　学校中、よくない噂たっちゃって。

上野　ああ……。

西内　でも傑作なのはここからなわけよ。

上野　傑作……？

西内　うん、はじまりはね、ある日、本人がうちの店へ来たの。

上野　……店に？

西内　いきなり。当然、その時は何も知らないわけじゃない、俺。  
ええ。

上野

あ、三葉の娘だ、何か売ってくれるのかな？ ラッキー、くらいにしか思ってたなかったらさ、その娘、いきなり展示してある制服を指差してこういったんだよ。「ここにある偽物、私の本物と取り替えて下さい！」って……。

西内

え？

上野

そう。

西内

取り替える……？

上野

うん。それでいきなりその場で着てた自分の制服脱ぎはじめちゃって……。

西内

あら。

上野

いや、こっちは焦るやら、嬉しいやらで……あ、もちろん止めたよ？

西内

ええ。

上野

でも結局、脱いじやって。

西内

あら。

上野

それで、下着姿でこっちをキツと睨みつけて。

西内

うん。

上野

最初で最後だったなあ、制服着てない女の子にときめくなんて。

西内

ああ……。

上野

大きな目でこちらを見てね、「本物はいくらになりますか！」って。

西内

何か……壮絶ですね。

上野

まあ……学生証もあったし……何より、千代田区在住の生粋の三葉生だったんで、三〇出しちゃった。

西内

三〇……？

上野

でも三五ですぐ売れました……とき。

西内

ええ……？

上野

同じ三葉でも、やっぱり千葉・埼玉在住の娘じゃ興ざめじゃない？

西内

はあ。

上野

そこいくと、やっぱり千代田区つてのが決手でさ、足立・葛飾あたりだったら一五いくかいかないくらいになっちゃう。もう、よくわからないです……。

西内

上野

制服マニアって、遊びじゃないんだよね。

西内

でも、じゃあ彼女はその後、ずっと偽物の制服を着てたんですか？

上野

かね？……まあ、まさかの学番一致騒動ってやつですよ。

西内

へえ。……いや、学番……？

上野

うん。

西内

（制服に近寄り）これにも着いてるの？

上野

じゃない？ 大抵は右袖の裏に刺繍してあるし。

西内

じゃあ、持ち主わかるじゃない……。

上野

（袖をめくり）ほら、ここ……六三A三一……。

西内

牛飼さん……！ 何やってるの……？

上野

あれ……？

西内

なに？

上野

これ……それだな。

西内

それ？

と、エレベーターより牛飼。

牛飼

ああ、西内。

西内

ああ！（やっときた） なんです……急に？

牛飼

おお、上野も、悪いな。

上野

ああ。

西内

あっさり特定です。

牛飼

本当に？

上野

まあ。

牛飼

どこ？

上野

東京三葉学園です。（制服をじつと眺め）……。

牛飼

え、全然違うじゃない。

西内

本人も特定です。

牛飼

え、誰？

西内

そのくらい自分でやってください。

牛飼

違うんだよ……。お前を呼び出したのにはわけがある。（上野

西内

に背を向けそつと）……歯形が一致した。  
え？

牛飼 西内 牛飼 西内 牛飼 西内 牛飼 西内 牛飼 西内

（そつと）昨日の死体の……。聞いてるだろ？  
はあ……。

（そつと）馬鹿、見つかったんだよ……。

え……誰が？

だから。

……え？

（ゆつくりとうなずき）そう……半七親分が……遺体で。

……。

まずいぞー……（静かに、しかし強く西内を指差す）。  
……。

おわりー。

#### ▼四場

その前日、火曜日。

ディスコ・ファンクラブ。

半八、牛飼、棟子が吊るされた制服マネキンを囲んでいる。棟子は手元にあるファイルと制服を見比べている。

えつと……。

うん、松戸四中だね。

でも、半八親分……こちらの資料写真と大分違いますが……。

松戸四中。

でも、襟のデザインがまったく……。

いや、俺、ここいらのことよく知ってるから、松戸四中。

でも、色も。

プリンターの発色じゃない？

はあ……。

松戸四中。

牛飼

半八

棟子

半八

棟子

半八

棟子

半八

棟子

半八

棟子

よし、棟子ちゃん、松戸四中あたって。

棟子

牛飼

ここは八島さんにかけてよう。

棟子

……はい。

牛飼

俺もどつかで見たことはあるんだ。でも、思い出せない。

棟子

はい。

牛飼

制服盗まれたりした子がいないか片っ端からあたって。正直、

俺は、中学生本人のいたずらだと思っただけ。

棟子

はい。……いじめの可能性もありますね。

牛飼

ああ。だとしたら……陰湿なやり方だな。何はともあれ、急

いでやつつけちゃおう。

棟子

はい。

棟子、出てゆく。

牛飼

いや、いつもありがとうございます。

半八

いえいえ。

牛飼

NPO法人「松戸の探偵」のみなさんのお力で、我々もだい

ぶ楽させてもらってます。

半八

そうですか。

牛飼

頼るべきはOBです。

半八

いえいえ。

牛飼

遺失物、ペット探し、駐輪場の整理……。

半八

スタンプもらっていいですか？

牛飼

あ、はい。

と、半八、スウェットのポケットから小さな二つ折のカードを取り出す。牛飼、それに自分のサインをしながら。

牛飼

……あ、あと一つでピンバッチもらえますね……。

半八

はい。永久名誉探偵もらえるまで頑張ります。

牛飼

ええ……。はい、どうぞ。

半八

（カードを受け取り）すいません。

牛飼

次はいつなんですか？

牛飼半八

半八

牛飼

半八

牛飼

半八

牛飼

半八

牛飼

半八

牛飼

半八

牛飼

半八

牛飼

半八

牛飼

半八

半八

牛飼

半八

牛飼

半八

半八

牛飼

半八

牛飼

半八  
牛飼  
半八

ごめんなさい、ママから頼まれちゃって……。  
ええ、さっそく寄ってみます。  
いえいえ……。

と、棟子、慌て戻ってくる。

棟子  
牛飼

牛飼さん……！  
……ん？ どうした？

棟子  
牛飼

二件！  
うん？

棟子  
牛飼  
棟子  
牛飼  
棟子  
牛飼  
棟子  
牛飼  
棟子  
牛飼

まずは携帯！  
え？ ああ……（携帯電話を取り出す）。  
急いで！  
すまん……充電切れてた。  
しっかりしてください！  
どうした……？  
本部から牛飼さんにと、緊急です。  
（キリリと）すぐ戻る。（報告を）続ける。

牛飼、身支度をはじめる。

棟子

本通り二番地河西屋裏庭より遺体が発見。

棟子  
牛飼  
棟子  
牛飼  
棟子  
牛飼  
棟子  
牛飼  
棟子  
牛飼  
棟子  
牛飼

くりかえします、本通り――。  
河西屋裏庭……？  
……はい。  
え、二度目……？  
はい。  
二度目……！  
はい。  
どういうことだよ！  
はい。あとは……おいで……。

棟子、開いたままになっていたエレベーターの中へ  
声をかける。と、女子中学生・小口が出て来る。

小口

……。

牛飼

え？ なに？

棟子

下に降りたりました。これが松戸四中の制服です。

牛飼

……あ？

一同、マネキンと小口の制服を見比べ。

半八

あ、全然違った……。

牛飼、エレベーターに駆け寄る。が、すでに下へ向  
かってしまったとみると、バーカウンターを乗り越  
え、非常口より外へ駆け出す。

棟子

牛飼さん……？

牛飼

馬鹿……！ それ、後回し……！

おわりー。

### ▼五場

その前日、月曜日。

デイスコ・ファンクラブ。

フロア中央にはまだ何も無い。

みっちゃんとなみなみが、制服を着せたマネキンを首  
吊り風にぶらさげようと、人形にくくりつけられた  
紐をを上方のパイプ上に通そうとしている。

みっちゃんはサッカー日本代表のユニフォームにナ

イロンの緑色のジャージパンツ（白ライン三本）。みなみは派手な色のゆったり目のニットをはおり、肩から下着の紐を見せている。細めのジーンズに銀色のパンプス。

みっちゃん  
じゃあ……いくよ。

みなみ  
はい。

みっちゃん  
せーの……。

みなみ、紐の先を持ち、みっちゃんに肩車される。

みなみ  
うおっ……。

みっちゃん  
大丈夫？

みなみ  
（パイプをつかもうと）もうちょい右……。

みっちゃん  
できれば、窓の方向かせたいんだよね……。

みなみ  
……本当に？……ミラーボールが邪魔かもだよ？

みっちゃん  
そっか……。

みなみ  
できるかな……。

みっちゃん  
見せてあげたいからさ、この町を。

みなみ  
まあ、そうね……。でも、あんま見えないかもよ？……はい、

通った。

みっちゃん  
サンキュ。じゃあ、もうわ。

みっちゃん、みなみを下へ降ろし、パイプの上を通した紐の先を受け取る。そして、そのまま紐をぐいとひっぱり、マネキンを首吊り死体に仕立ててゆく。

みなみ  
うわー……。

みっちゃん  
俺、ちゃんと死ぬからさ……。

みなみ  
うん？

みっちゃん  
それで、みなみのこと守るから。

みなみ  
ああ。でもさ……。

みっちゃん  
なに？

みなみ  
だから、別に私、いいんだよ？

みっちゃん

なにが？

みなみ

みっちゃんのままでも。

みっちゃん

でも、やっぱり、このままじゃ中途半端だから。ここできちんと死んで、それで三途の川、渡ってさ。

みなみ

江戸川でしょ。

みっちゃん

それで、地獄に行くんだ。

みなみ

東京でしょ。

みっちゃん

できれば天国であってほしいけど。

みなみ

だから東京でしょ。

みっちゃん

うん……。

みなみ

丈夫だよ、そんなに怖いところじゃないって……。

みっちゃん

でも、東京に本当の空はないんだよ……？

みなみ

だったら松戸の空も偽物だよ。もういいよ、どこが本物か偽物かなんて。

みっちゃん

うん。

みなみ

ジュース、もらっていいかな？

みっちゃん

ああ。

みなみ、カウンターの下の冷蔵庫から一リットルパックのオレンジジュースを取り出す。

みなみ

（直飲みしながら）オリヴィエ、驚くかな。

みっちゃん

うん。……落ち込むかもな。

みなみ

なんで？

みっちゃん

一人にしちゃうから。

みなみ

大丈夫だよ、オリヴィエは強いから。

みっちゃん

だったらいいけど……。

みなみ

うん。——あ、エレベーター。

みっちゃん

え？ 早くない？

みなみ

まずい、まずい。手紙、どうしようか。

みっちゃん

え、まだ封もしてないって。

みなみ

オリヴィエじゃないかもだし、ちよつと隠れよう。

二人、ブースの裏に隠れる。

と、オリヴィエ、黄色いビールケースを持ちやって

来る。

オリヴィエ

（誰もいないだろう店内に）おはようございます。今日も一日お願いしまーす……。

ビールケースを運びながら、首吊り死体の横を通り過ぎる。

オリヴィエ

……もう一ケースだけ入れちゃいます。

エレベーターで下へ降りていく。

間

みっちゃん、みなみ、そっと顔を覗かせ。

みなみ

あれ……以外と冷静？

みっちゃん

大丈夫かな？

みなみ

（マネキンを）見てたよね？

みっちゃん

たぶん……。

みなみ

これ（マネキン）、みっちゃんだつてどこまで気づいてた？

みっちゃん

うん……。でも、最近はずつと三葉だったし、見ればわかると思うけど。

みなみ

どうする？ やっぱり会って話したら？

みっちゃん

うん……。怒るかな？

みなみ

そうでもないと思うけどなあ……。

みっちゃん

わかった。じゃあ、俺、手紙、ちゃんと手渡しするわ。

みなみ

だったら話しなよ。

みっちゃん

でもさ。

みなみ

だって、目の前にいるんだから。

みっちゃん

だからさあ。

と、ふいにエレベーターの扉が開き、オリヴィエが入って来る。

オリヴィエ

あ。

みっちゃん

あ……おう。

オリヴィエ

大丈夫？

みっちゃん

ん？

オリヴィエ

（マネキンを指差し）これ……。

みっちゃん

うん？

みなみ

言っちゃえ。

みっちゃん

おう。……実はさ、俺たち、これから……。

オリヴィエ

いま警察来るから。

みっちゃん

え？

オリヴィエ

通報したから、いま、すぐ来る。安心して。

みっちゃん

え？ え？ え？

オリヴィエ

だって、みっちゃんがさ、首、吊るされてさ……。

みっちゃん

いや、だから、俺、ここいるけど。

オリヴィエ

……あ？ そうか……。

みなみ

さすがに気がついたか。

オリヴィエ

え？

みなみ

（マネキンを指さし）みっちゃんだって。

オリヴィエ

うん、だって、どこからどう見たって、みっちゃんじゃん。

みっちゃん

オリヴィエ。

オリヴィエ

なんか、輝いてるし。

みっちゃん

オリヴィエ……。

オリヴィエ

……なに？

みっちゃん

ありがとう。

オリヴィエ

だから、なに？

みっちゃん

そして、さようなら。

オリヴィエ

え？

みっちゃん

俺、松戸ッ娘やめる。

オリヴィエ

え？

みっちゃん

ごめん。

オリヴィエ

どういうこと？

みっちゃん

みなみと東京いく。

オリヴィエ

ええ？

みなみ

ごめん。私は別に一人で行ってもいいんだけどさ。

オリヴィエ

いや、それはダメだよ。みなみの側にはみっちゃんがいなき

や……。

みっちゃん

みなみがさ、どうしても東京行きたいって。勝負してみたいって。じゃあ、当然俺もいかなきゃって……。

オリヴィエ

そっか……。

みっちゃん

オリヴィエには感謝してる。あんな馬鹿みたいなユニットにさ、ずっとステージを与え続けてくれて、更にメンバーが俺一人になっっちゃってからは、一緒にステージ立ってくれてうん。

オリヴィエ

みっちゃん

一緒にさ……青春の熱を、世界に向けて……。

オリヴィエ

いついくの？

みなみ

うん。

みっちゃん

本当はさ、会わずに発とうとしたんだよ。何て言ってもいいかわからないからさ。

オリヴィエ

うん。

みっちゃん

だから、みっちゃんっていう松戸ッ娘の象徴をさ、こうやって葬ってやることで、オリヴィエに感知してもらえればって。そっか……。ごめん、でもやっぱりちよつとショックだった。

オリヴィエ

みなみ

そうだよねえ。

オリヴィエ

みっちゃんが俺の店で首吊るされてるって……。

みっちゃん

うん。

オリヴィエ

自殺か？ いや、みっちゃんはそんなことしない。じゃあ……これは事件だって。

みっちゃん

ああ。

オリヴィエ

でも、もしかしたら俺が殺したのかもしれない……って。

みっちゃん

……え？ いや、オリヴィエは何にもしてないよ。

オリヴィエ

それとも、みっちゃんって、俺自身のことだったのか……って。

みっちゃん

ん？ どういうこと？

オリヴィエ

最近そういう小説読んでさ……。

みっちゃん

そっか……。

みなみ

やっぱり、やりすぎだったんじゃない？

みっちゃん

でも、手紙だけじゃさ。

オリヴィエ

手紙？

みなみ

一生懸命書いたみたいよ。

みっちゃん  
（オリヴィエに渡す）後で読んで。

オリヴィエ  
あ……うん。

みっちゃん  
おう。

オリヴィエ  
東京はどこにいくの？

みっちゃん  
とりあえず北千住。

オリヴィエ  
ああ……電車で八分だ。近くていいね。

みっちゃん  
うん。でも、東京だからさ。

みなみ  
本当はさ、自由が丘がよかったんだけど、高けーや。

オリヴィエ  
みなみは大丈夫なの？

みなみ  
なにが？

オリヴィエ  
東京。

みなみ  
っていつても、専門学校通うだけだからねえ……。

オリヴィエ  
あ、そうなんだ。

みっちゃん  
ネイル……？

みなみ  
うん。

みっちゃん  
東京で勝負したいって。

みなみ  
まあさ、こっちでもいいんだろうけど、一度は青山とかで働いてみたいかなって。

オリヴィエ  
へえ、青山ってところがあるんだ……。おしやれなところなの？

オリヴィエ  
え？

みっちゃん  
いや冗談だけど。

オリヴィエ  
だよねえ、オリヴィエ、美容院青山だしねえ。

みなみ  
え、そうなの？

みっちゃん  
うん、ずっとそうだよ。

オリヴィエ  
そっか……。

みっちゃん  
ま、一流のネイリストになったらさ、こっちに凱旋するから。

オリヴィエ  
うん。

みなみ  
それまではね。ここだと甘えちゃうから。

オリヴィエ  
うん。

オリヴィエ  
私なりの一線、超えてみる。

みなみ

と、エレベーターより棟子。

みなみ  
ん……？

棟子

……大丈夫ですか？

みなみ

あ。

棟子

（マネキンが目に入り）……！

みっちゃん

いや、えつと。

オリヴィエ

……。

棟子

（ギリリと）ご連絡ありがとうございます。……通報者の方

は……？

オリヴィエ

……。

みっちゃん、みなみ、オリヴィエ、チラチラと互いに視線を交わし。

幕

■二幕（ホテルの景）

「松戸駅」西口より縦に走る大通り沿い。徒歩五分。ビジネス用よりも少し豪華なつくりの「ホテル PARADISE」。

五階の一室。十五畳ほどあるリビング風のエリア。

正面に黄色のカーテン（ベランダへの窓）。手前にL字に組まれたグレーの革張りソファ、ガラスのローテーブル。左手に大きなテレビとビデオデッキ。その横に、バス・トイレ、ベッドルーム、および入ロドアにつながる短い廊下への扉。逆サイドに仕事が出来る高さの机と椅子。机の奥には「朝食バイキングは三十六品目食べ放題!」「お風呂・洗面所の水はすべてアルカリイオン水です!」「浴衣は好み柄に交換できます!」等、ホテルの凄みアピールするラミネート加工された案内書きが五・六種類ぶらさがる。

▼一場

一九九七年、九月。

五階の一室、リビング風のエリア。

県警本部の刑事・洪、報告書を手に苛立たし気に部屋をうろついている。正面に直立不動の若手刑事・牛飼。その横に松戸署交通課新人・西内。

洪

牛飼

バカ……。

申し訳ございません……。

洪 申し訳ございませんじゃねーよ。  
牛飼 ……。

洪 なにか言えよ。

牛飼 申し訳ございません。

洪 だから、申し訳ございませんじゃねーって……。

牛飼 確かにここにいたんです。

洪 そりゃいただろうよ。俺だって会って喋ったんだから。

牛飼 はい。

洪 じゃあ、いついなくなったんだよ？

牛飼 なので、わからないんです。

洪 知ってるよ。

牛飼 ……え、いつですか？

洪 そういうことじゃなくって。

牛飼 あ、は。

洪 お前は複数の間違えを犯している。

牛飼 複数。

洪 ……まず一つ目、報告書のな（当該箇所を探す）……ここ、「風俗嬢の派遣について」……。

牛飼 は。

洪 たしかに、「半七さんに女でも充てがってやれ」といったのは俺だ。

牛飼 は。

洪 （報告書を確認しながら）しかし、到着早々、午前九時一〇分……仕事もしていない朝っぱらからホテル嬢みたいなを送り込むってのは正気の沙汰じゃない。

牛飼 むこうの方はせつかちだって伺ったもので……。

西内 あと、お風呂のお湯は熱くしろとも。

洪 お前は喋るな、あとで言及する。

西内 ……は。

洪 そして次。

牛飼 は。

洪 親分はだな……妹さんを、それはそれはひどい事件で亡くされたわけだ。

牛飼 はい。……土の中から発見されました。

洪 その時、妹さん、どんな格好してたんだっけ？

牛飼

制服姿でした。

洪

そう、奇跡的にな、中身は腐っちまったが、外身の衣服だけがな、奇跡的にな、残ったわけだ。

牛飼

おそらくは、妹さんから、私を見つけてください。私はここにいますよ、というメッセージだったのではないかと。

洪

そうかもしれんな。

牛飼

はい。

洪

まあ、なんにせよ、妹さんの死体は制服を来ていたわけだ。

牛飼

はい。

洪

そんな中、どうして制服姿の女を送り込む？

牛飼

は？

洪

それお前、馬主に馬刺くわせるようなもんだぞ？

牛飼

……やはり牛肉でしょうか。

洪

うん、何がやはりなのかはさておき、制服はないわ。

牛飼

……は。

洪

そして、こいつだ。

西内

はい。

洪

誰だっけ？

西内

は、この春、松戸署交通課に配属されました、西内まりもです。

洪

もう、本当にちよっとよくわからないのだが。

牛飼

は。

洪

お前は、どうして、こいつに……何をどうさせようとした？

牛飼

やはり頼りになるのは身内かと思いついて。

西内

正直、私も最初に話を聞いたときは、あまりにも無謀な話だと思いました。

洪

無謀？

西内

はい。私がいまさら女子高生ってのは……。

洪

うん。

西内

大学生ならまだなんちゃっても通じますが、社会人ともなば、さすがに。

洪

うん。

西内

しかし、昇進のためには、これは必要な通過儀礼なのではないかという思いもありました。

洪

うん、警察の腐敗なんてのはさ、もうそれなりの昔っから、

定番中の定番でさ。女刑事が、身体を武器にして大物を手玉にとつていくなんていう大胆な設定もさ、それなりに世に出回っている。事実、そういったこともあるやもしれん。実際のピカレスクロマン。しかし、交通課の新人がだ、いきなりそういうやり方をとるつてのは、どうなんだろう？ しかも、なんだ、本人の意思っていうか……。

牛飼  
西内

先輩が……なんて言つて来たの？

洪

いまから制服きてホテルへいけないかな？ と。

西内

うん。

洪

制服のありかは指示する、と。

西内

朝一でお願いしました。

牛飼

うん。

洪

私、昔から誰とでも寝れるんで。

西内

おう。

洪

疑問はありませんでした。

西内

おう。

洪

もちろん、それなりの覚悟は必要でしたが。

西内

うん、女子高生つて部分ね。

洪

はい。なので、牛飼さんには、せめてナースになりはしないと相談はしました。

西内

そうなのか？

洪

はい。すいません、報告が遅れました。彼女から、ナースの提案がありました。

牛飼

なのに、お前は制服を。

洪

はい。ひとつ訂正いいですか？

牛飼

なに？

洪

さきほど、私が、制服きてホテルへいけないか、と打診したとの発言がありましたが、厳密には、制服を脱いでホテルへいけないかといいました。  
あ。

西内

（小声で）でしょ？

牛飼

（小声で）はい。

西内

その制服を脱いでつてのは、仕事を一時的に離れてという比

牛飼

喩でして。

洪、報告書を牛飼の顔に投げつける。

牛飼

……！

洪

牛飼

わかるよ、そのくらい……。いちいち全部言わなくてもいい！  
は！……その後あらためて、制服がいいと思うといいました！

西内

私は、どうして男の人って制服が好きなのかなということ  
理論的に考えてみようと思いました。面倒くさいのでやめま  
した！

洪

うん、ひどい！

西内

すいません（敬礼）！

洪

いいか……？ 何がお前らの最大のミスかわかるか？

牛飼

やはりナースでしたか？

洪

せめてな。

牛飼

すいません。

洪

しかし、そこはたいした問題ではない。

西内

では……？

洪

（西内に）お前だよ。

西内

私？

洪

そう。お前の役作り。

西内

粗かったですか……？

洪

そうじゃなくって。少し厳密すぎた。

西内

厳密……。

洪

おそらくは、社会人になってまで女子高生を演じるというプ  
レシヤーから作り込むべき役をはき違えたんだろうね。  
といいますと……？

西内

洪、あご先で落ちている報告書を指す。牛飼、それ  
を拾い上げ当該箇所をさがす。

洪

「チェンジ！」……。

西内　　は？「あ……了解です。次の娘がくるまで一五分程お待ち下さい」……。

洪　　　それ。

西内　　は……？

牛飼　　（報告書にそれを見つけ）あ。

洪　　　お前は馬鹿か？

西内　　違います（敬礼）。

洪　　　じゃあ、なんで、わざわざ親分の元に押し掛けながら、むごむごと瞬時に身を退くんだよ。

牛飼　　……ああ、そうか。彼女は女子高生の役よりも、むしろホテル嬢の役を強く引き受けすぎたと……。  
……あ。

西内

洪　　　いいや、なんかどうでもいい話に終始している気がする。……。  
……。  
は……。

西内

洪　　　で、だから、どこいったんだよ、半七親分は。

牛飼　　なので、何度も申し上げている通り……わかりません、と。

洪　　　奥さんが搜索願い出したって。

牛飼　　……はい。

洪　　　さすがに連絡なしで二ヶ月も帰ってこないのは異常だって。  
は。

洪

俺、この話くるまで知らなかったよ。親分、いきなりいなくなっちゃったけど、何か独自の捜査してるんだろうなあ……って。

牛飼

私もそう思っていました。さすが大物はいきなりいなくなるんだなあ……って。

洪

牛飼

洪

牛飼

なんで、捜査も二ヶ月とめたまんまだよ。  
はい。

洪

まさか、失踪してたとはな……。

牛飼 はい……。

洪 （書類を眺め）親分さあ……。

牛飼 はい。

洪 本籍、鹿児島なんだなあ。

牛飼 え？……江戸では？

洪 ちなみに現住所は、小手指な。

牛飼 え……江戸ではなく……。しかし、妹さんは確か千代田区に住んでいたと……。

洪 まあ、色々事情があるんだろうけどさ……。

牛飼 ……は。

西内 やっぱ私のせいですかね……？

洪 いや、まあ……チェンジしちゃったのは、問題っちゃ問題だけれども、それが問題ではない気もする。問題はむしろ……。

牛飼 誰がチェンジの後やって来たかってことですね。

洪 そう。

牛飼 むむ。

西内 ただ、私が言うのもなんですが、チェンジの事実を知っているのは、親分と私だけなので……。お店に連絡もしてないし……。

洪 そもそもお店ないしな……。

西内 あ……。

牛飼 つまりは誰が半七親分と最後に会ったのか……。

洪 ふむ……。

洪 お前、そもそも、どうして半七親分のそば離れた？  
は？

洪 親分の担当、お前だろ？

牛飼 しかし、それは警部が、上野の店をすぐに取り締まれと。

洪 ああ……。じゃあ、（責任は）俺か。……俺か？

牛飼 ……そうなりますね。

洪 まいったな……。

牛飼 すいません、でも、それも本質的じゃないなあ……。  
洪 でしょ？

牛飼

はい、すみません。

洪

で、そっちはどうなったの？

牛飼

は？

洪

上野のお店。

牛飼

ああ。

洪

お前、なにも報告しないな。

牛飼

申し訳ございません。

洪

バカ……！

牛飼

申し訳ございません！

洪

申し訳ございませんじゃねーって！

牛飼

……。

洪

なんか言えよ。

牛飼

上野は結局、あの店だけのことでなく、以前にも怪しい商売をしており、諸々の裏取りをし、先日逮捕にいたりしました。

洪

怪しい商売？

牛飼

はい。

洪

なんだ、それは。

牛飼

古いとこですと五年前です。制服。パブを。

洪

制服。パブ……？

牛飼

従業員が高校等の制服を着用し、客に酒などを提供していました。

洪

それだけか？

牛飼

従業員は下は十二歳から、上は四十八歳まで。

洪

なるほど怪しい。

牛飼

ちなみに男子生徒も在籍していたようです。

洪

男子？

牛飼

毎週月・木は、男子校デーと称しまして、近隣の女性客でたいそう賑わっていたようです。

洪

そう。

牛飼

そちらは……下は十六から上は七十二まで。

洪

校長先生役ではなく？

牛飼

みな生徒です。

洪

ん……。

牛飼

まあ、上野の罪状は風営法違反と単純なものでしたが、従業

員の見た目は複雑だったかと思われま  
す。  
なるほど……。

しかし一方、従業員はみなイキイキと楽しそうに働いて  
いたとの情報もありました。  
というと？

それなりに年齢を重ねた、所謂おばさん、およびジイ  
どもが制服を着てはしゃぎまわる店だったようですが、  
自己実現の場として、客の受けもよかったようです。

みな過ぎ去った青春に未練たっぷりなんだなあ……。  
はい。ですので、閉店の際には、従業員からも顧客  
からも「やめないでくれ」の声が続出したそうです。

なんでやめちゃった？

店が入っていたマンションにちょっとした小火騒ぎが  
あり、それを機に、無許可での営業が判明。もちろん、  
従業員の年齢も……。

そうか……。  
は。

いや、あれ……？ 上野ってあの上野か？  
……ご存知ですか？

うん。ああ……小火の……「スクールデイズ」  
の上野か？  
そうです。

ああ、上野って、同じ上野か！  
ん……はあ。

俺、五年前、ちょっとでしゃばっちゃったんだよ。  
でしゃばった？

俺、逃がしてやったの。  
逃がした？

うん、俺、こっちにいた最後の年でさ。  
ええ。

いや、だってさ、その「スクールデイズ」だけ……？  
はい。

どう考えても社会の役に立ってたでしょ。  
という……？

だって、老若男女がさ、世代を超えてみなで集まってワイ

牛飼 洪 牛飼 洪 牛飼 西内 洪 牛飼 洪 牛飼 牛飼 洪 牛飼 洪 牛飼 牛飼 洪 牛飼 西内

イしてたんでしょ？

ええ。

そこで、自己実現。

ええ。

必要だろ、そういうところ。

……ですか。

だって、西内ちゃんもさ、許されるなら制服着たいでしょ、

まだ？

（すぐに）はい。

必要だよ。

はあ……。

いいよ、上野、出しちゃえ。

え？

まだ勾留されてんだろ？

ええ。

じゃあ、釈放。

いや、しかし……。

あいつ、ギリギリだけど、なんか社会の役に立つから。

ええつと……。

俺・た・ち・な・り・の・町・づ・く・り・っ・て・い・う・か・な・……。

……ですね。

んん？

うん……。

じゃ、釈放で……？

は！

は！

おわりー

## ▼二場

その二ヶ月前、七月。  
五階の一室、リビング風のエリア。

警視庁の刑事・半七（七瀬半）、トランクケースを部屋に無造作に転がし、窓の外を眺めている。しばらく何かブツブツ何か唄っている（流行りの洋楽）。

と、遠くからドアをノックする音。返事を待たず、しばらくすると洪が入って来る。

洪 （リビングの扉をそっと開けながら）……失礼します。  
半七 ……ん？ ああ……。  
洪 あ、申し訳ございません、遅れました（頭を下げる）。  
半七 いや。  
洪 ドアの鍵が開いていたもので……重ね、お詫びいたします（頭を下げる）。  
半七 大丈夫。……歌ってました。

と、追って牛飼。

牛飼 （遠くドアの外から）失礼いたします！  
洪 （そちらに）バカ！ 遅い！  
牛飼 （外から）失礼しました！

牛飼、急ぎリビングへ入ってくる。半七の姿を認めると反射的にキュッと敬礼。

牛飼 県警捜査一課の牛飼です！  
洪 バカ！ 俺の挨拶がまだだ！  
牛飼 失礼しました！

洪 捜査一課の洪雄大です。この度のご足労、感謝申し上げます。  
半七 いえ。

洪 （牛飼に）さあ、ほら。  
牛飼 は？  
洪 あいさつ。  
牛飼 それは先ほど……。

洪 バカ！あらためるんだよ、こういう時は。  
牛飼 失礼しました！

半七 大丈夫です、牛飼さん。  
牛飼 は。

洪 申し訳ない、どうにもまだ若手なもので……。  
半七 ええ。

洪 よかったな。  
牛飼 は？

洪 早速、名前を覚えていただいて。  
牛飼 光栄です。

半七 神田明神下の半七です。

洪 は！（敬礼）

牛飼 は！（敬礼）  
洪 ご高名はかねがね。

牛飼 すべての刑事の憧れです。  
半七 ありがとうございます。

従来<sup>・</sup>の<sup>・</sup>半七<sup>・</sup>は「神田三河町」の者であり、「神田明神下」は銭形平次である。しかし、誰もそれに気がつかない。

半七 そして、ご連絡、感謝します。

洪 この宿へはいっ？  
半七 ついさつき……でしょうか。

洪 そうですか。  
半七 ええ。

洪 快適な宿とはいえませんが、この町の中心に位置します。捜査には好都合かと。

半七 ありがとうございます、わがままをいわせてもらいます。次からの宿は町のはずれにしてください。

牛飼 はずれに……はて？ しかし不便でしょう。

半七

事件に必要なものは、どうしたって流れの端っこに吹き溜まります。端から見ればただのゴミでも、岡っ引き連中にや、それが宝になる。

牛飼

なるほど。

洪

失礼。承知しました。

半七

しかし、ここはここでよい佇まいです。長居しないにこしたことはないが、しばらくのんびりしてもよさそうです。

洪

ありがとうございます。

半七

さて……では、はじめましょう。

洪

……状況は？

半七

大凡はきいています。

洪

そうですか……。なんといいか……。

半七

お心遣い、感謝します。

洪

は。……。

間

牛飼

……鑑識からの報告によると……詳細はまだ確定できていませんが、死後五年は経ってつっているだろうとのことですよ。

半七

そうですか。

洪

間もなく、正確なところがわかるでしょう。

半七

ええ。……しかし五年前ですと、最後に連絡をとった時期と重なります。大体はその頃とみて間違いはないでしょう。

洪

そうですか……。

半七

ええ。

洪

親分にあらためこんなことをお聞きするのも、失礼極まりないのですが……その、何か心当たりは？

半七

恥ずかしながら、皆目。

洪

そうですか……。

半七

しかし……。

洪

は……。

半七

最近は……もうお転婆なんて物言いはしませんが……まあ、そういった類の娘でした。当たりといえばそこいらでしょうか。家でも外でも裏表無く、うるさいくらいに活発。何かに

首をつつこんだのかもしれませんが。  
……ご無念、お察しいたします。

制服を着ていたとか。

はい。紺のセーラー服。

ええ、袖に番号がついていましたので、そこから失礼ながら  
身元を……。

そうですか……。高校の頃のものでしょうか。

まだ、これからだったでしょうに……。

ええ……。

何もそんな青春のど真ん中に――。

いえ、お二人は何か勘違いをされている。

……勘違い？

ええ。仮に五年前としましょう。しかし、その頃、妹はもう

二十歳を過ぎた頃でした。

二十を過ぎた頃……？

どのみち、まだこれからでしたが。

……いや、失礼。しかし、どういうことです？

犯人は上野一雄です。

……は？

犯人は言い過ぎかもしれませんが。しかし、彼が重要な情報を  
握っている可能性は極めて高い。

上野一雄……？

おや、ご存知ですか？

西口の三ツ和マンションの……？

ええ。

誰だ、それは？

はい……。

西口、目の前の通りを進むと一階にフライドチキンがあって、  
通りを渡り次の角を左に曲がる。しばらく進むと右手側に……。

ええ。

その六階、六〇三号室に、その上野って男は店を構えてま

牛飼  
半七

牛飼  
半七

洪  
半七

牛飼  
半七

牛飼  
半七

洪  
半七

半七

洪  
半七

洪  
半七

洪  
半七

牛飼

洪  
半七

洪  
牛飼  
半七

洪

す。といっても、店というほどの店じゃない。マンションの一室にとこ狭しとある商品が並んでるだけのものです。

洪 商品？

牛飼 制服です。

洪 制服……？

牛飼 いわゆるブルセラショップです。いまだ根強く、売春やデー  
トクラブの温床である可能性があり、目を付けていました。

洪 ほお……そんなものが。

半七 ……なるほど、牛飼さんは目が利く。

牛飼 ありがとうございます。

洪 ふん。

牛飼 しかし、半七親分……どうして上野の店を？

半七 ……いえ、なに。駅に着き、一休みとコーヒーをすすって

洪 た時のことです。目の目の前を、どうにも不釣り合いなカッ  
プルが通りすぎていった。平日の朝七時、背広姿のサラリー  
マンの腕に、制服姿の女性がしがみついている。髪の毛の長さが  
ちやうど覚えていた頃の妹に重なったのかもしれない。後  
を追いました。すると例の部屋へたどり着きました。上野一  
雄というのは表札に出ていた名前です。偽名かもしれません。  
なるほど……。しかし、じゃあ、その店は事実上もう売春  
斡旋をしているってことか……？

半七 似たようなことはしてるでしょう。

洪 よし。……牛飼、早急に誰かまわしとけ。お前の手柄だ。

牛飼 は。失礼します。

牛飼、出て行く。

洪 いや流石ですな……。早速のご協力感謝いたします。

半七 いや。

洪 妹さんと対面は。

半七 まだ。

洪 そうですか。すぐにご案内させます。近隣に詳しい者も呼ん

半七 でおります。なにか気になることがあれば。

半七 恐れ入ります。では早速ひとつ。

洪 おや、なんでしよう？

半七 ここいらに……鰻の美味しい店がありますか？

洪 鰻？

半七 ええ。

洪 においますか？

半七 駅に降りたとたん、美味そうな匂いがプンプンして。好物なんですよ。

洪 聞いておきましょう。川沿いの町ですから、間違いない店があるでしょう。

半七 恐れ入ります。

洪 では、しばらく……。まずは妹さんに会ってあげてください。

半七 ええ。

洪 久々に声をかけてあげられますね。

半七 はい。

洪 といっても、もうただの土に近いようですが……。

半七 妹に変わりはありません。

洪 では、すぐに。

洪、出て行く。

間

半七、再び流行の歌を口ずさむ。

と、リビングの扉がそっと開く。女子高生姿の西内の姿。間をおかず部屋に滑り込む。

……？

半七 ……おまたせしました。クリスタル・レイクの西内まりもです……。

半七 ん、なにか……？

西内 学園コース九十分で大丈夫ですか？

半七 いや。

西内 あ、「チェンジ！」……ですか……？

半七 いや、なんだろう……。

西内

ありがとうございます。次の娘が来ますまで十五分ほどお待ちください。

半七

いや。

西内、滑り出て行く。

半七

……これは一体……？

間

半七

一五分か……（西内の去った扉に近づく）。

と、ふいにソファーに腰掛けた絹の姿。さきほどの西内とほぼ同じ制服姿。

絹

何、待ってんのよ……？

半七

……え？

絹

見つけた。

半七

（絹の方へ振り返り）いや――。

絹

こんなところにいたか……。

半七

どうした……？

絹

どうしたじゃないよ。あんたでしょ、見つけるのは。

半七

ん？

絹

来るって聞いたから、待ってたのに。

半七

ああ。

絹

いきなり宿で、女待ちかよ。

半七

すぐにいくつもりだった。

絹

半七親分。

半七

うん、お絹。

絹

ずいぶんと遅いじゃない。

半七

すまん。

絹

五年待った。

半七 ……ああ。

絹 ちゃんと探した？

半七 ああ。

絹 本当かな……。

半七 居場所を見つけて元気にやってるのかと……そう思いもした。

間

半七 お前、何で死んだ？

絹 自分の人生を生きたかった。

間

半七 すまねえ……よくわかんねーんだよ、そういうの……俺。

絹 野暮な旦那だよ。

間

半七 誰に殺された？

間

絹 名探偵がそれを幽霊にきいちゃおしめーでしょ……？

半七 妹が腐り切った死体で見つけたときいちゃあ……俺だって、

それなりに動揺はする……。

間

半七 昔、黙って高校やめたのもそれか……？

絹 なに？

半七 自分の人生を、とか……そういうことか？

絹 なに、急に……？

半七 あの時分には、もう話をしてなかった。

絹 お兄ちゃん。

半七

絹

半七

絹

半七

絹

ん？

昔をふりかえるのは覚悟がいるよ……。

ああ。

本当に？

……。

昔を振り返るのはさ、今ある問題を解決することじゃない。みんな、そこを勘違いしてる。むしろ今をややこしくするだけかもしれない。過去を思い出してさ……できるのは、その時の輝きを、きらめきを、憤りを、衝動を……その目で確認すること。むしろそれだけのこと。決して、今ある問題は解決しない。今に戻ってなんてこれないよ。

半七

絹

半七

絹

半七

絹

半七

絹

半七

絹

どうして高校やめた？

あんた、私の話きいてた？

そこで潮目が変わった。

あれは単純に変な噂を流されたから……。

あれか……。

♪売春時代の真ん中は……道に迷っているばかり……。

くだらねえ。

でもうけたんだよ……そんなのが。あんな古い歌が、また。

売ったのは、ただの制服だろう。気にしなきゃいいだろう。

らしくもない。それこそ自分の人生だ。

でも、だからこそ、自分の人生を人に生きてほしくなかった。

その前に自分の意思で……私自身の意思で、自分を手放して、見知らぬ人に自分自身を売ればいいって思った。それを証明したかった。

アレゴリーしかねえな……。

どのみち結果は、こういうことだよ……。

割り切れねーよ。

半七

絹

半七

絹

ほら、犯人が来たよ。

と、八島、何も音をたてずリビングへ入って来る。  
スウェット上下に警官の帽子だけ被っている。手に

はタオルに巻かれた十手らしきもの。絹はすつとカーテンのかげに身を隠す。

半七

……！

半八

あ、ノックもなしに失礼いたしました！ お待たせして申し訳ございません、松戸署地域課の八島と申します。すいません……あ、この格好は、つき先ほど池に落ちてしましまして……！……池？

半七  
半八

地元の小さな池でございます。さあ、ただいまより親分を現場にご案内いたします。現場にはお手洗いがございません。よろしければ、今のうちに……。

半七

……ん、ああ。

半七、リビングを出て、バス・トイレの方へと向かう。それを見届け、半八、手に持ったタオルをほどいてゆく。中から文化包丁。彼はそれを右手に強く握り、タオルを使いしっかり手に縛り込んでゆく。

半八

……。

半八、静かにリビングを出てゆく。

間

奥からバタバタと争う音。

絹、カーテンのかげから怯えた顔つきで飛び出す。急ぎ扉の奥を覗き込む。

絹

……！！！！

絹、瞬時に再びカーテンのかげに逃げ込む。ややあって、返り血を浴びた半八がリビングに入ってくる。

■三幕（マンシヨンの景）

ホテル・PARADISEと大通りを挟み反対側。横道を三分程すむと右側に三ツ和マンシヨン。新築ではないが煤けてはいない。外壁は生垣で、入口にレンガをあしらったアーチがある。

六〇三号室。「上野一雄」の表札。

室内はコンクリート打ちっぱなしのまま。明かりは暗く、床からいくつのかの間接照明が壁にあたっている。天井から「裏原宿系」と呼ばれるブランドのTシャツ類が五、六枚吊ぶら下がり、賑やかな色合いのスケートボードがあちこちにディスプレイされている。それらに混じり合うよう、女子高校生の制服が七、八点、吊るされている。

▼一場

一九九六年、秋。  
室内。

上野、みっちゃん、オリヴィエ。部屋の角に集まっている。

上野  
みっちゃん

一応さ、言われたやつ、持って来たけど。  
あつたんですか？

上野

俺もそれなりにマニアやってるから、時間もらえれば探しはできるけど……。

みっちちゃん

本物ですか？

上野

だって、それが一番（の条件）なんでしょ？

みっちちゃん

はい。

上野

うん、本物。

みっちちゃん

絹ちゃんが通ってた学校の。

上野

東京三葉学園。

みっちちゃん

東京三葉学園。どうせ本物買うなら、その制服着て、彼女の分も輝やいてあげたいなって……。いや、まだどこかで輝いてるのかもしれないけど。

上野

好きだったの？

みっちちゃん

……はい。好きでした。

上野

そっか。（店内を見回し）ごめんね、思い出の場所、こんなにしちゃって。

みっちちゃん

いえ。でも、驚きました。

上野

うん。

みっちちゃん

でも、クールでカッコいいです。

上野

ありがとう。

上野

彼は？

みっちちゃん

娘の、新メンバーです。

上野

ああ。

今、きいたばかりですけど……。

上野

うん。サイズ、大丈夫かな。

みっちちゃん

すいません。彼、デイリーの上の……ファンクラブってご存知ですか？

上野

あ？……魚浪の向いの……角の？

みっちちゃん

はい。

上野

ごめん、店はわかんないけど……場所は、まあ……。

みっちちゃん

はい。小さなクラブっていうか、デイスコ……っていうか、大きめなカラオケボックスみたいなところなんですけど、その仕切りを今度まかせられて……。

上野

でも、あそこいらって大野屋さんの土地でしょ？

みっちゃん

なんで、こいつ、大野屋さんのお姉さんの方の……お孫さんの……妹さんの方とずっとつき合ってた。

上野

あ……？ うん。

みっちゃん

基本、常連さんが昔のディスコヒットとかハードロックとか歌謡曲なんかを流してるとこなんですけど、今度、娘も月二でレギュラーやらしてもらうことになって。っていっても、メンバー今は俺一人になっちゃって……でもじゃあ、あえてこのタイミングで勝負かけようって……。な？

オリヴィエ

うん、よくわかんないけど……。

間

上野

さすがにさ、三葉の本物二着ってのは無理だったんで、逆にコンビとしてのコントラスト意識して選んできた……。

上野、飾られている制服から二着をはずし、手に持つ。

みっちゃん

ああ……さすがです……。

上野

うん、少女と女性の対比っていうか。

みつ

はい。……（オリヴィエに）な？

オリヴィエ

……うん。

みっちゃん

大丈夫、似合う似合わないじゃなくって、青春の熱をさ。

オリヴィエ

俺がやるの……？

みっちゃん

もうオリヴィエしかないんだよ。

オリヴィエ

まあ、いいけど……。

みっちゃん

制服も用意したし。大丈夫、金は、俺出すから。

オリヴィエ

いいよ、自分の分は自分で出すから。

みっちゃん

オリヴィエ……。

上野

じゃあ、いい？

みっちゃん

はい。

上野

本当はね、売りたいくないんだよ。

みっちゃん

え……。

上野

これ、実は俺のコレクションでさ。

みっちゃん

はい……。

上野

でも、絹ちゃんの名前出されてさ、一緒に輝きたいって言われちゃあさ。

みっちゃん

……はい。

上野

これね……絹ちゃんの、そのものなんだよ。

みっちゃん

ん……？

上野

うん、本人の実物。

みっちゃん

え……？

上野

昔ね、俺が本人から仕入れて、俺がすぐに買っちゃったの。

みっちゃん

えつと……？

上野

ルール違反なんだけどね。

みっちゃん

あ……はい。

上野

これは、あげる。

みっちゃん

え。

上野、絹の制服をみっちゃんの腕にやさしく乗せてやる。

みっちゃん

……。

上野

絹ちゃん……売り買いはできないよね。

みっちゃん

上野さん……。

上野

値段つかないよ。

みっちゃん

上野さん……。

上野

うん、なんで、今日はこっちの彼の分だけ。

みっちゃん

はい……。

上野

一応、これも洪女の本物なんで。

みっちゃん

（オリヴィエに）よかったな……。

オリヴィエ

……よくわかんないけど。まあ、みっちゃんが、輝けるなら、協力はするけどさ……。

みっちゃん

うん。

上野、オリヴィエの腕に制服をやさしく乗せる。

上野

じゃあ、一二でいいよ。

みっちゃん

一二……万……？

上野

うん。スカーフなしでいいなら、八万六千くらいのもあるけど……。

みっちゃん

うん……（オリヴィエをみる）

オリヴィエ

まあ、（スカーフありでも）いいけどさ……。

上野、あらためて店内を見回す。いくつかの制服が  
少しだけ揺れる。

幕

■ 四幕（和室の景）

呉服の河西屋は駅西口から少しはなれた街道筋に面する“路面店”である。老舗の余裕か経年のためか少し物寂しい佇まい。入口には成人式や着付けをアピールする和服美女のポスター。店内に二階への階段がある。

二階は十二畳程の和室が二つ並んでおり、着付け教室の際は襖を開き、ぶち抜きで使う。

手前の和室。左手に入口の襖。室内に座卓や茶箆筥などの生活用品は一切なく、ただ畳が敷かれているだけの空間。右手に床の間があるが花も軸も飾ってはいない。正面、通りに面した障子から外を走る車・バスの音が聞こえる。

▼ 一場

一九九五年、お昼時。  
二階、手前の和室。

座布団が差し向かいに置かれている。半八、片側に座り、白の堅い紙ケースに入った大きな写真を手にぼんやり。スウェット上下に浅葱色の羽織をはおり、目の前に十手が置いてある。側に飲みかけのお茶と

手つかずのお菓子。

と、絹、その向いに立っている。

絹 どうするの？

半八 うん。

絹 会って決める？

半八 そういうわけにはいかないでしょ。

絹 ……いいんだよ？

半八 うん？

絹 私のことは、気にしなくても。

半八 うん。でも、ちよつと悪いよ。

絹 ちよつと？

半八 やつぱり、まだ好きなどころもあるし。

絹 ところも？

半八 うん。

絹 （半八の上着を指し）それ、なんなの？

半八 羽織？

絹 なの？

半八 うん。

絹 高そうじゃない。

半八 でも、中はスウェットだから。

絹 そっか。

半八 うん。

絹 その十手は？

半八 これは、アメ横まで行って、直に見て選んだ。

絹 そっか。

半八 うん。

絹 なに？ 仕事、やめたくなかったの？

半八 そういうわけじゃないけど。

絹 でもさ……。

半八 まあ。

絹 何、調べるの？

半八

特にないけど。

絹

私のことは？

半八

絹

その気になれば、一秒で解決できるけど……。  
うん。

絹

お金は大丈夫なの？

半八

ないよ。

絹

それ、いくらするの？

半八

これ（羽織）？

絹

うん。

半八

五万八千円。

絹

……え？

半八

ごめん、嘘。

絹

ああ。

半八

それは十手だった。羽織は四万円。

絹

そっか……。

半八

うん。

絹

もう……無駄遣い、やめなよ。

半八

うん。

絹

ちゃんと食べてる？

半八

うん。

絹

何食べてるの？

半八

つけ麺。

絹

うん。

半八

あとは……なんだろう。

絹

そっか。

絹

奥さん、もらいなよ。

半八

うん。でも、やっぱり嫌かもだ。

絹

なんで？

半八

疲れそう。

絹

わからないじゃない。

半八

でも、奥さんはたいてい疲れるよ。

半八

ねえ、ビールも？

絹　ん……？

半八　ビールも無駄遣い？

絹　うん。酔っぱらっても、何も先にすすまないよ。

半八　じゃあ、よかった。今朝はまだ二本しか飲んでないから。

絹　うん。じゃあ、夜まで我慢しな。そうしたら、もう三本買っていいから。

半八　絹。

絹　なに？

半八　なんで死んじゃったんだよ？

絹　お前に殺されたんだって。

半八　俺、馬鹿だなあ……。

絹　うん、あんた馬鹿だよ。

半八　どうしたら本物のお前に会える？

　　いつの間にか半八、一人。

半八　つかまえる、か……。

　　と、十手を手に取る。

半八　御用だ！　御用だ！　……神妙にいたせ！　……！　あぶね

　　ー！　キンッ！　キン！

　　半八、一人立ち回り、畳の上を転げ回る。

半八　……御用……だ。

　　半八、ゴロリと横たわり、天井を見上げる。

半八　神妙にいたせ……。

おわり！。

▼二場

その日の午前中。

二階、手前の和室。

半八の叔母・淳子がお茶を運んで来る。ドレープの入ったうぐいす色のブラウスに芥子色スカート。下に深緑の足先まであるタイツを履いている。半八は淳子にすすめられたお見合い写真をじっと眺めている。

……

どう？

どうって言われてもさ……。

とってもいい娘なの。

うん。

ちよつとヴィヴィアン・リーに似てるでしょ。

……うーん？

本当にいい娘。

うん。

焼きそばが得意なんですって。

焼きそば？

得意料理。

うん。

珍しいでしょ。

うん。

半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八

淳子、エアコンのリモコンで室温を調整する。

淳子

あんたもさ、辛いことばっかで。

半八

そうなのかなあ。

淳子

奥さんに逃げられて、仕事クビになって。

半八

だから、別に籍は入れてなかったからさ。

淳子

私ね、そういう時こそ、女に逃げてもいいと思う。

半八

いや、そういうの失礼だよ（写真を閉じ、淳子の方へ返す）。

淳子

でもね、こうでもしなきゃ、あんた、どうするの？

半八

叔母さんの言うこともわかるけどさ。

淳子

会っただけでいいから。

半八

俺にはもったいなさすぎるよ。

淳子

そういうのは会ってから言うものよ？

半八

それに、別に俺、絹に逃げられたわけじゃないからね？

淳子

でも、絶対にそうよ。

半八

わからないって。

淳子

だって、もう二年でしょ？

半八

うん。

淳子

逃げたんじゃなければ、多少なりとも情報はつかめるでしょ？

半八

うん。

淳子

それで仕事までクビになって。

半八

あれは自分で辞めたんだって。

淳子

でもそれだって、奥さんに逃げられてっていうあれでしょ？

半八

世間体っていうか……。

淳子

別に珍しくもないからさ、今は。それに奥さんじゃなかったわけだし。

半八

でも同僚の人はみんな知ってたんでしょ？

淳子

うっすら、「あいつにもそんな人がいるのかもよ」くらいだよ。

半八

でも、出世には響くでしょ。

淳子

まあ、あるのかもしれないけど。

半八

なんで辞めたの？

淳子

別に理由なんてないけどさ。

半八

本当に？

淳子

向いてないなあって思ったただだよ。

半八

十年もやって？

淳子

うん。

半八

でも、次の仕事見つかってないんでしょ？

淳子

まあ、ちよつとはのんびりさせてよ。

半八

でもだったらさ、隣にキレイな人がいれば、のんびりできる

淳子

じゃない。

別に一人でもものんびりできるって。

いい娘なの。

うん、そうなんだろうけどさ。

あ、あんた裏庭の物置、直してくれたんだって？

ん？ ああ。

もうボロボロでしょ？ あれ。

うん。でも、扉の蝶番取り替えたし、しばらくは大丈夫だと思っけど。

なんか悪いわね。

別にそのくらいいいけど。

早く増築したいんだけどさ。

ずつと言ってるじゃない。

でもどうせ建てるなら、ちゃんとしたものにしたいじゃない？

そう、ねえ。

だったら、それなりにお金かかるじゃない。

まあ、ねえ。

でも、お義父さんも……おそろくずつと車椅子だし。

そっか。

バリアフリー。

うん。

間

美代ちゃん。

ん？

茨城の子（写真に目をやり）。

ああ……。

やさしいわよ。

うん。

こっち来てもいいって。

うん。

お父さんがモーターボート持ってて。

半八  
淳子  
半八

淳子  
半八  
半八  
淳子  
半八

淳子  
半八  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八

半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八

淳子  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八  
淳子  
半八

半八 うん。

半八 霞ヶ浦から川つたつてくると二十分でこっちこれるって。

半八 へえ。

半八 飛行機じゃないってところが控え目じゃない。

半八 仕事は？ 何してる人なの？

半八 あ、会う？ 会う？

半八 会わないけど。

半八 じゃあ、なんで仕事きくのよ？

半八 流れでさ。

半八 あんたは川下んなくていいのよ。興味ないなら、きかないでよ。

半八 わかったけど。

半八 大体、あんたはさ、自分ってものがないのよ。

半八 うん。

半八 だからよ、奥さんに逃げられて、仕事クビになって。

半八 うん。

半八 興味もないのに、人の仕事きいて。まだお巡りさんのつもり？  
そんなつもりはないけどさ。

半八 じゃあ、何をそんなに調べようっての。

半八 別にさ……相手の仕事きいただけじゃない？

半八 そこから推理をするんでしょ？

半八 なんの？

半八 知らないわよ、そんなの。素人にわかるわけないじゃない。  
なんだ、これ。

半八 美代ちゃん。

半八 わかったよ。

半八 おっぱい大きいわよ。

半八 そういふのは別にいいよ。

半八 正直、向こうの人は、夜も本当にいやらしいって言うじゃない。  
い。

半八 知らないけどさ。

半八 キヤバクラで働いてるって言ってたから、そっちの方もすごいんじゃないの？

半八 偏見だって。

淳子 あ、仕事、言っちゃった。

半八 うん。

淳子 結婚すれば全部タダよ。

半八 そういう発言、問題あるよ。

淳子 毎晩、くんずほぐれつ。

半八 叔母さん、さつきから度をこえてるよ？

淳子 向こうの人はすごいらしいから。

半八 向こうってなに？

淳子 だから茨城の子だって言ったじゃない。

半八 何を基準に向こうっていつてんの？

淳子 ここか、ここじゃないか、でしょ？

半八 なにが？

淳子 人って。

半八 え？

淳子 人って、ここか、ここじゃないかでしょ？ 人だけじゃないわよ。

半八 ん？

淳子 ライト・ヒア、ライト・ナウよ。

半八 なにが？

淳子 今よ。

半八 だから、なにが？

淳子 ここよ。

半八 なにが？

淳子 ライト・ヒア、ライト・ナウ。大事。

淳子、お見合い写真を再び半八の前に置く。

淳子 あんた、お昼は？

半八 ん？

淳子 お蕎麦とるけど。

半八 あ、じゃあ。

淳子 メニューいる？

半八 いや……サラダうどん、いいかな？

淳子 サラダうどんね。

半八  
淳子  
半八

うん。

来たら呼ぶから、下でいい？

うん。

淳子、部屋を出てゆく。階段を下るサンダル音が聞こえる。

■五幕（裏庭の景）

幕

河西屋の裏庭。といっても店舗・母屋の裏にそれはなく、実際は通りを挟み徒歩二分程の場所にある。河西屋と同じ街道筋にある羽田米店。その脇を奥へ一〇メートルほど抜けると、その行き止まりに二〇坪ほどの土地がある。先代の頃、縁があり河西屋がそこを買い取ったが、これといった有効な使い道が見つからず、そのままとなっている。「立ち入り禁止」の札も柵もないが、子どもの遊び場にも、ホームレスの拠点にもなっていない。裏庭という呼び名は町全体でも通称として通じる。

三方をマンションと立体駐車場に囲まれた空き地。雑草が生い茂り、それに埋もれるよう、正面に錆びた朝礼台。右手の塀沿いに木製の古びた物置が二つ並び、左手にはテーブルと腰掛け部がつながっている四人用のピクニックテーブル、ビニールをかけられた片付けきれないバーベキューセットなどが見える。

▼一場

一九九二年 強い西日の頃。  
河西屋・裏庭。

ピクニックテーブルの側に警官・半八と三葉学園の制服を着こなした絹が向かい合い立っている。裏庭の入口付近に停めている半八の白い自転車が隙間から差し込む西日に照らされている。

半八 何やってたの？

絹 うん。

半八 ねえ。

絹 うん。

半八 あそこがさ、どういう場所か……。

絹 うん。

半八 じゃあ。

絹 ごめんなさい。

半八 え、じゃあ、やってたの？

絹 ……。

半八 なんで、なにをつてきかないの？

絹 ……。

半八 ごめん、確かに俺、全然お金稼いでないからさ。給料以外に

絹 何の収入があるわけでもないし。

絹 ううん。

半八 でもさ。

絹 うん。

半八 何に使うの？

絹 なに？

半八 お金。

絹 うん……。

半八 ねえ。

絹 うん。……洋服買ったり……友達と飲んだり、マッサージい

ったり……。

うん。

うん……。

半八 本当はさ、俺がちゃんと何年、何年で上の階級いつて、給料があがれば、それでよかったんだけど。昇任試験落ちた俺が馬鹿なだけなんだけどさ。

絹 ううん。

半八 俺、お兄さんみたいにさ、切れ者じゃないし、リーダーみたいなもできないし、颯爽としてないし、ううん。

半八 だからお金もないし、そういう収入の……収入以外の収入みたいなのもうまくてきないし。ううん。

半八 失敗だった？

絹 なに？

半八 俺のとききたの。本当はこっちが地獄だった？

絹 なに？

半八 そうだよ、絹はさ、地獄から楽園に来たんじゃなくって、本当は、東京で死んで、それで三途の川渡って、こっちの地獄に来たんだよ。

絹 違う。

半八 違わないよ。

絹 違う。

半八 それとも、本物の絹はさ、もしかしたらまだ向こうでキラキラしてるのかもしれない。偽物に……偽物なんかになるから、地獄みてるんだよ。

絹 違う。

半八 違わない。でも、ごめん、誘ったの俺だね……。

絹 違う。

半八 俺だよ。

絹 私ね……本物なんだと思う。これが私の本物だよ。お金欲しくて、ちよつとした楽しみがずっと欲しくって、結局……そ

れでどうしてもお金欲しくて、上野さんに仕事ありませんかって。

半八

それで売春？

絹

売春じゃない。

半八

じゃ、なに？ デートクラブで、男とホテルいって、売春じゃないなら、なに？

絹

本物の私。二時間で三万五千円。それが本当の私。

半八

……。

絹

二時間で三万五千円。四時間で七万円。八時間で十四万円。

半八

……。

絹

一週間三百万、ひと月千二百万。一年で一億四千万。

半八

なんだよ？

絹

それが私、本当の私。

半八

アレゴリーしかねえな。

絹

そう……。

間

半八

俺、金ねえよ。買えねーよ。

絹

じゃあ……本当の私は、誰がどう受け止めてくれるんだ？

半八

本物のお前はさ……三十分で……三十万で……売れて、買われて、価値が上がったり、下がったり、こっちに来たり、東京に戻ったり、どこにいるのかもわからない。好きに使われて……いまだどこかをふらついてんだ。

絹

じゃあ、私は誰だ？

半八

知らねーよ。

絹

ちゃんと見てみて。ここにいてるけど。

半八

見てるよ。

絹

見てない。

半八

見てる。

絹

上野じゃないよ。

半八

なに？

絹

あんただよ。

半八

なにが？

絹

制服マニアはさ。

半八

……。

絹

中身をまったく見ようとしな。上っ面の、外っ側の、本物だとか、偽物だとか。階級だとか昇任試験だとか。私は本物でも偽物でもない。私の中身は、いま、ここにある。ただ、ある。そして、それも売れた。それだけ。……割切んなよ。

半八

二時間三万五千円？

絹

そう。……悪い？

半八

そう……。

半八、ゆっくりと絹に近寄る。彼女の両肩に手をのせ、泣こうとしているのか、顔をダランと下に落とす。しばらくそのままの格好。絹の視線は、半八の頭上を通りこし、西日に焼けるマンションを見ている。と、半八、ふいに絹の首に手をかける。

絹

……！

絹、反射的に半八を突き飛ばし、テーブルの奥へ逃げる。

絹

……え？

地面に転げた半八は起き上がり、素早く絹を追う。

絹

——（言葉が出ない）。

半八、絹の両腕をつかまえテーブルにのけぞるよう押し付ける。絹は半八の腕をつかみ返そうとし、また相手の叩ける身体の箇所を懸命に叩き続ける。しばらくの攻防の後、最後は半八が全体重をかけ、絹をテーブルに押しつぶす形で首を絞めあげる。手足をじたばたと動かす絹。しかし、やがてあきらめた

のか、その動きを自らの意思でやめてゆく。それでも半八はしばらく（二分程度）首にかけた手の力をゆるめない。その後、そうつと相手の顔色をうかがいながら、手をはなしていく。

絹はもう動かない。

半八

（冷静に）……。

おわりー。

## ▼二場

その二時間前。

河西屋・裏庭。

警官・半八と、松戸署の刑事・洪が空き地の真ん中に立っている。裏庭に面するマンションの一つの上階（六階あたり）を眺め、風が強いのか、二人とも大きな声で話をしている。二人の奥、朝礼台の側にセーラー服姿のみつちゃんとみなみの姿。

半八

出火時、店内には上野を含め五名が出勤していたようです。

洪

うん。

半八

客はまだいなかったようです。

洪

ん。

半八

うち三名は高齢のため一時帰宅をしています。

洪

上野は？

半八

署の方へ行っているかと。

洪

じゃあ、俺もそっち（にいくべき）だな。

半八

は。

洪

いくつかの事件で、絶えず名前が上がってた奴でさ。

半八

なるほど。

洪

小火か。

半八

はい。

洪

ひよんなどところからこっちに来てくれた。

半八

こっち？

洪

一度捕まえちまえば、どうにかなる。な？

半八

は……。

洪

上野一雄な。

半八

は。

洪

まあ、ごくろう（去ろうとする）。

半八

警部補。

洪

ん？

半八

先ほどの従業員ですが、まだ一名がまだこちらに避難をしておりません。消防より確認の要請が。

洪

わかった。

半八

二十歳前後の女が、制服を着ていたようです。

洪

特定が難しいな。

半八

はい。

洪

まあ、いいや。一人でいる学生、片っ端から声かけろ。

半八

は。

洪

ん。

半八

それと……。

洪

ん？

半八

他の者ははっきり認めませんが、その女、通報と前後して外で客をとっていた可能性が……。

洪

ん？

半八

は……。

洪

売春か？

半八

は。

洪

ん……。

半八

マンションの入口に貼紙をしておきましたので、戻ればまずここをたずねるかと思います。

洪

ごくろう。

半八

は。

洪

（朝礼台の方を眺め）あの二人が。

半八

店にいた残りの者です。

洪

あれ（二人）は売春、関係ないだろ？

半八 そう思われます。

洪 あと、帰宅した高齢者つてのも関係ないな。

半八 は。スクールデイズ、店の名前ですが、そこには複数の表情

があるようです。

洪 ……呼んで。

半八 は。

半八、みっちゃん、みなみの側へ寄り、洪の元へ歩かせる。二人とも、罰ゲームグッズのような、薄いナイロン生地で作られたセーラー服を着ている。また黒いローファーはともにサイズが合っていない。

みっちゃん ……。

洪 お前、いくつだ。

みっちゃん 二十四です。

洪 親、泣くぞ。

みっちゃん 親、関係ないです。

洪 なんだ、その格好は。

みっちゃん 輝いてます。

洪 あ？

みっちゃん 今、私はピカピカです。

洪 あ？

みっちゃん 本来、こちらが私です。

洪 あ？

みっちゃん 厳密にいうならば、私は、本当は女であるべきだったとか、そういうことではなく、また女装に何かしらの愉悦を感じるとか、そういうこともなく、求めるものは輝きの放出です。よくわかんねーよ、そういうの、俺。

洪

みなみ でも、私は、そういうのよくわかって。

洪 うん。で、お前はいくつだよ。

みなみ 十二です。

洪 親、どこだ。

みなみ 親、関係ないです。

洪 いや、お前の場合、関係あるんだよ、まだ。  
みなみ 私の親、偽物なんで。

洪 どうして人は、みな事情があるのだろうか。

みなみ みつちゃんは、輝きたいだけなんです。いえ、みつちゃんだけでなく、あの店にいる人はみな、本当の輝きを手にしたいだけなんです。実際の生活で輝けないのならば、スクールデイズで輝かずして、どこで輝けとおっしゃる。ええ？ 刑事さん？ 答えてください。  
みつちゃん そうだ、そうだ！

洪 よくわからないのだが、そのみつちゃんとやらは、いま輝いているのか？  
輝いてます。

洪 そんな、パーティーグッズみたいな格好して。  
みなみ 見た目、関係ない。

洪 でもな、これは、どうみたって、花見で浮かれている幹事にしか見えんぞ？  
では、いつの日にか本物を買います。

洪 本物？  
本物の制服、買ってやりますよ。

洪 そりゃいいけどさ……。なんか論点ズレてないか？  
みなみ 本来、本当の輝きがあれば、見た目なんてどうでもいい、それが我々の基本理念です。しかし、それだけでは通らない、世間の目というものもある。

洪 ……ん？  
みなみ ええ。

洪 おう……十二歳。  
みなみ ならば揃えましょう、中身の輝きにあった外身を。みつちゃんはそのいったことを言っているのだと思います。論点、ズレてませんけど。

洪 ……おう。  
みなみ ええ。  
洪 ……十二歳。

みなみ

実際、私もそう思います。自身の見た目は大人が持つべき最低限の責任です。しかし、その責任を果たせない弱き者は、しかたがない、大人の用意した制服を着ることもあるでしょう。ただし、くり返します、見た目は本来、中身の輝きとは無関係です。それだけは覚えておいてください。

洪

わかった。

みなみ

ありがとうございます。

洪

十二歳。

みなみ

ありがとうございます。

洪

よし。

みなみ

そう、上野さんに（お伝えください）。

洪

十二歳。

みなみ

ありがとうございます。

洪

わかった。

みなみ

と。

洪

わかった。

洪、通りすがりにみなみの肩をポンと叩き、みっちやんの姿をじっと眺める。再び、みなみを顔をチラリと見ると、足早にその場を去る。半八は敬礼でそれを見送る。と、入れ替わるよう、制服姿の絹が裏庭に入って来る。

絹

ああ、いた！

みっちちゃん

あ、絹ちゃん！

絹

え、なんなの？

みっちちゃん

燃えた！ 燃えちゃったよ！

絹

なに？ 火事なの？

みなみ

大丈夫、ただの小火みたいなんです。

絹

本当？ みんなは――。

と絹、半八を見つける。

絹

……あ。

半八、不思議そうな顔。

幕

■ 六幕（河川敷の景）

裏庭より街道を上り五分。江戸川の河川敷。土手から対岸に東京が見える。

土手の上は遊歩道・サイクリングロードが両立していて、土手を下りると川辺までは五〇メートルほど。手前三〇メートルはグラウンドの体で、その先二〇メートルは背の高い草がぼうぼうと生えている。

▼ 一場

一九九〇年、陽の暮れる少し前。  
江戸川・河川敷。

制服を着た高校生・絹が一人、ポツンと土手に座り、ぼんやり川の向こうを眺めている。と、土手の下を警官・半八が白い自転車を押しながら通りかかる。一度は絹を通り過ぎたものの、何を気にしたのか戻って来る。

半八

（土手の下から）どうしたの？

絹、しばらくしてから、その声が自分に向けられた  
ものと気付き振り返る。

半八  
絹  
半八

どうしたの？  
いえ……。  
そう。

絹、視線を元に戻す。半八、去る。  
が、すぐに戻って来る。

半八  
絹  
半八

（土手の下から）ごめん、やっぱり、ちょっと名前聞いてお  
いていいかな？  
いえ……。  
そう。

半八、もう一度去る。  
が、やはり戻って来る。

半八

（土手の下から）いや、でも、やっぱり聞いておこうかな。

絹  
半八  
絹  
半八  
絹  
半八

七瀬絹。  
ななせきぬ。  
でも、偽物です。  
偽物。  
はい。  
うん。

間

絹  
半八  
絹  
半八  
絹

今日からです。  
うん。  
はい。  
じゃあ、昨日まで、本物だったんだ。  
ついさっきまで本物でした。

絹半 絹半 絹半 絹半

どう？

どの？

そつか。

半 絹 半 絹 半 絹 半 絹 半 絹 半

はい？

はい、  
いいです。

•  
•  
•  
•  
•  
•  
○

$$\begin{matrix} \bullet \\ \bullet \\ \bullet \\ \bullet \\ \bullet \\ \bullet \end{matrix} \quad \bigcirc$$

•  
•  
•  
•  
•  
○

▼回想の場

制服が……？

え、制服だよ？

でも、本人、制服売ったの午後二時過ぎだっていつてたよ？

そういうものなの？

上野  
半八  
上野  
半八

鮮度いいと、割とすぐですね。  
その人ってつかまるかな？  
いや、どうだろう……？ その人、東京の人だしなあ。  
ああ。

▼一場（続き）

半八

絹ちゃん。

絹

あ。

半八

（両手にペットボトルを持ち）サイダーとぶどうサイダー。

絹

はい？

半八

どっちがいい？

絹

……じゃあ、サイダーで。

半八

うん。じゃあ、はい。

絹

あ、すいません。いくらですか？

半八

いいよ。

絹

いや、お金はあるんで。

半八

うん、きいた。……三〇万だって。

絹

はい。

半八

大丈夫？ ちゃんと持ってる？

絹

はい。なのですいません、大きいのがないですけど。

半八

いや、本当、いいよ。

絹

すいません。じゃ、いただきます、サイダー。

半八

うん、僕はぶどうサイダー……。 （飲んで） 本当になぶどうの味がする。

間

半八

ごめん、絹ちゃんの、本物、もう売れちゃったって。

絹

……え？

半八

三〇分前からなかったって。

絹

え？ どうして？

半八

うん、やっぱり絹ちゃんがキレイだからだと思う。

絹

いやいやいや。だって顔わかんないし。

半八 半八 絹でも、やっぱりキレイだってわかったんじゃない？  
制服で？

半八 うん、制服で。

絹 ……。

半八 あ、口の中がまだぶどうだ……。

絹 ……。

半八 これ、本当にジューシーだよ。

絹 ……。

半八 どうしようか……？

絹 なに？

半八 本物の絹ちゃん、どっかいっちゃったし……。

絹 ああ。

絹 別にいいんですけど、偽物でも。

半八 本当に？

絹 はい。今度は本当に。

半八 そう。

絹 はい。

絹 なんかすっきりしたし。

半八 うん。

絹 引き裂かれたけど。

半八 うん？

絹 ありがとうございます。

半八 うん。気をつけてね。

絹 はい。

半八 家、帰れる？

絹 お金はあるんで。

半八 あ、そうか。

絹 タクシー乗っちゃえば。

半八 家、どこ？

絹 神田です。

半八 え、東京？

絹 はい。

半八 じゃあ、川向こうだ。

絹 そうなんですか？

半八 うん、江戸川。

絹 ああ、江戸。

半八 え？

絹 昔は江戸だったんですね。

半八 うん。

絹 そこから舟で帰れないかな？

半八 うーん。意外と近いかもだけどね。

絹 そうしたら違った自分の町に帰れそうなのに。

半八 渡しもちよっと遠いしなあ……。

絹 無理なあ。いつから川ってこんなに不便になったんだろう。

絹 どのみち地獄だなあ……。

半八 なに？

絹 お巡りさん、あの川の向こうは地獄です。

半八 え、そうなの？

絹 三途の川だ。

半八 ああ……。

絹 学校中、噂、広まっちゃって。

半八 うん。

絹 つらいなあ。

半八 うん。

半八 じゃあ、こっちにいれば？

絹 ……？

半八 たぶん、本物の絹ちゃんは、だれかが向こうに連れてってくれたから、偽物の絹ちゃんはこっちにいて大丈夫かなって。

絹 お巡りさん。

半八 ん？

絹 あんた、なんでそんなに優しいの？

半八 僕もね、引き裂かれてる。

絹 なに？

半八

今すぐ制服脱ぎ捨ててき、プライベートに、絹ちゃんに声かけたいなつて。

絹

は？

半八

そんなこと思っちゃつて。

絹

やば。

半八

うん。

半八

でも割切っちゃつた。

絹

気持悪いです。

半八

うん。

絹

私のお兄ちゃん、刑事なんで。

半八

うん？

絹

変な事したらすぐにつかまりますけど。

半八

ああ。

絹

優秀なんで。

半八

大丈夫、今日は送るだけだから。

絹

なに？

半八

駅まで、今日はお兄さんにかわつて僕が警護してあげるから。

絹

じゃあ、お願いします。

絹、そつと笑う。

半八もそつと笑う。

しかし、辺りはもう暗く互いの顔はもうよくわからない。

■ おわり

その時、もし川の向こうにスカイツリーが見えたなら。

岡本綺堂「半七捕物帳」に想を得て。